



来週の投資戦略 (8/16-20)

経済指標、パウエル発言に注目

2021年8月15日

小松 徹

注目事項 — 見所

- 8月16日、4-6月期実質GDP成長率 — 前期比0.2%増?
- 8月17日、パウエル米連邦準備理事会 (FRB) 議長発言 — 難しい質問には?
- 8月20日、消費者物価指数 (生鮮食品、エネルギーを除く) — 前年比0.8%下落?

株式市場見通し

同じ書き出しになるが、先週も米国株式市場が強かった。主要株価2指数が史上最高値を更新した。わが国も主要株価指数が0.6~1.9%上昇した。年初来では日経225の1.9%高に対して、超大型株指数は9.7%高となった。この差はファーストリテイリング(9983)18.4%安、TDK(6762)23.5%安など超大型株30に入っていない値嵩株下落の影響が大きい。

先週個人投資家に人気のソフトバンクグループ(9984)とメルカリ(4385)が決算発表した。予想通り、孫会長に元気はなかった。中国への投資は規制がどこまで進むか静観するとしている。ただし、他の市場には積極姿勢で臨む点は変わらない。自社株買いについて質問があったが、大規模な資産売却で現金に余裕が出来れば可能性はあるとした。メルカリは初の営業黒字が新聞紙面を飾ったが、アナリストは米国市場の伸びが予想を下回ったこと、再度投資して営業黒字には拘らないとした点が一部投資家に嫌われたようだ。

さて、来週は米国の金融政策の先行きに関する思惑が飛び交おう。火曜日にパウエルFRB議長が先生や生徒と質疑応答をする。どこまで本音が出てくるか、SNSなどでも視聴可能のようだ。その翌日に前回の公開市場委員会(FOMC)の議事録要旨が発表される。債券、為替アナリストがどのように解釈するか、見方の違いでこれら市場が短期間に動く可能性もあろう。

最後に、わが国のワクチン接種完了率が本日付で36.7%と1週間前より3.8ポイント上昇した。供給量の問題もあって、前週に比較して伸びは鈍化した。英国で58.9%、ドイツで56.1%の接種完了率だが、早くも3度目の接種を用意しているようだ。2回接種すれば、デルタ株に対しても有効だとの論文が出ているが、まだ4割以上も接種していない人がいる方が問題だと思う。わが国では感染者数が急増している。東京、大阪の百貨店でクラスターが発生したにもかかわらず、営業を続けたとは呆れる。どれほど多くの顧客が感染したことだろうか、想像に難くない。知らないで家族団らんでご馳走を食べれば、感染は一気に広がっただろう。重症者も増えてきたので注意しなければならないが、死者が急増していないので、投資家心理が冷え込んでいないようだ。ただ、来週のわが国の経済指標がデフレを示すような弱い数値に対して、ユーロ圏が力強い数字になるので、わが国市場が上値を追うのは難しそうだ。

KPAの投資戦略

ロング (買い)	ショート (売り)
好財務の割安株、今期大幅増益株	高PB低位株、高PE新興株

(注) ヘッジ・ファンド向け戦略としての一例。投資期間は半年程度を想定。



本レポートは、情報提供の目的のみでご利用者に提供されるものであり、有価証券売買に関する何らかの申し込みまたは勧誘を意図するものではありません。本レポートに記載されるすべての意見および予測は、レポートの日付時点におけるコマツ・ポートフォリオ・アドバイザーズ(以下、KPA)の判断であって、予告なしに変更される場合があります。KPAは本レポートに記載される情報もしくは分析がすべてのご利用者にとって適切であるとの表明を行うものではありません。ご利用者は、投資に伴うリスクとメリットがご自身にとって適切であるかどうか、自己の責任で判断して頂きます。KPAは本レポートについてその正確性、完全性または適時性を保証していません。KPAはいかなる保証も行わないことを明確にしています。KPAは本レポートに記載される情報もしくは分析にご利用者が依拠した結果として被る可能性のある直接的あるいは間接的な損害について責任を負いません。本レポートについての知的財産権はKPAに帰属し、著作権、特許権、商標権その他の知的財産権に関する法令により保護されています。本レポートを印刷した場合も、その印刷物の著作権は、KPAに帰属します。ご利用者は個人的利用を目的としたバックアップのためにのみ印刷、複製することができます。プリントアウトした印刷物や複製したデータを、個人的利用以外の目的で使用することはできません。ご利用者は、本レポートを、有償・無償を問わず、第三者に提供することはできません。また、これを改変、修正することはできません。本規定にご利用者が違反した場合、KPAは金銭的な損害賠償を含む救済手段を請求する権利があります。